

タイ類の資源を有効利用する底びき網

漁業生産・情報工学部

(協力:千葉県銚子水産事務所)

研究の背景・目的

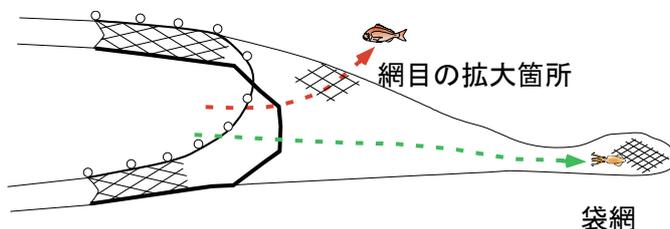
1. 底びき網漁業では様々な生物を漁獲しているが、市場価値を持つ大きさは種によって異なる。そのため、市場価値がない(低い)大きさのある種を逃がす目的で袋網(網に入った魚がたまる場所)の網目を拡大すると、市場価値がある(高い)大きさの別の種まで逃げるおそれがある。
2. 網内での行動の差を利用して、市場価値がある種をできるだけ逃がさずに、市場価値がない小さなタイ類を逃がす網を開発する。

研究成果

1. 水中ビデオカメラにより網内を撮影した。タイ類が網に突き上げる行動を示したのに対し、ジンドウイカやウマヅラハギは突き上げる行動を示さなかった。
2. 袋網よりも前で上側の網目を拡大することにより、市場価値がない小さなタイ類を逃がし、市場価値があるジンドウイカやウマヅラハギの漁獲を維持できる。
3. 網の入口を上下方向に広げた網の方が、大きなタイ類を多く漁獲できた。

波及効果

1. 市場価値がない小さなタイ類などを保護し、大きくなって市場価値が高くなってから漁獲することで資源を有効利用できる。
2. 市場価値の高い大きなタイ類をより多く漁獲できるように網を改良できる。



左: 漁獲過程のイメージ (小さなタイ類は上方向に突き上げるため拡大した網目から逃げる。ジンドウイカは上方向に逃げないため袋網で漁獲される)

右: 改良した底びき網 (白い部分が網目の拡大箇所)

(漁具・漁法グループ: 藤田 薫)